

国語

◆大設問ごとの内容と結果◆

大設問	主な出題内容	設問数	配点	受検者平均点	受検者得点率(%)
問一	漢字の読み取り、同音の漢字、短歌	9	20	15.08	75.39
問二	文学的文章の読解	6	24	18.50	77.07
問三	説明的文章の読解	9	30	19.13	63.75
問四	古文の読解	4	16	7.33	45.83
問五	資料を活用した問題	2	10	3.17	31.70
		30	100	63.20	—

(「令和6年度神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果」より作成)

(参考：合格者平均点64.0)

◆概要◆

全体で30問という問題数に変化はなく、全体の文章量も昨年度の約8400字に比べて今年度は約8600字と若干増加した程度ですが、易しかった昨年度の反動からか、大幅に難化しています。問五が会話文とグラフという形式から、大学共通テストを意識した複数の文章を読み比べる形式に変わったことにとまどった受験生も多かったのではないのでしょうか。来年度の大学共通テストから複数の文章やグラフを使った大問が追加されることもあり、そうした流れは今後も続くものと思われます。とはいえ、長文を要領よく正確に読み取る能力が必要とされる傾向に変わりはなく、普段からさまざまな文章に触れることで読解力を磨く努力を怠らないことが対策として重要です。

◆大設問ごとの出題傾向と難度◆

問一：(ア)はaの「固唾」が、常用漢字表の付表に示されている熟字訓で高難度でした。昨年度の「頒布」もそうですが、少なくとも一問は難しい読みが出ると心しておくべきでしょう。(イ)は漢字の書き取り問題です。すべて小学校で学習した漢字(「推す」は中学配当読み)で、平易な問題です。(ウ)の短歌の鑑賞は、「八月のまひる」の太陽を受けて「かがやく階段」の情景を読み取る、やや難度の高い問題でした。「音なき」という言葉や選択肢から、「瀑布のごとく」が「滝のような(太陽の光)」という比喻であることに気づけるかどうか为正誤の分かれ目になります。

問二：出典は高森美由紀「藍色ちくちく」で、後に南部菱刺しの工房の主宰となる「より子」が嫁いだ日の「父親」とのやりとりを、方言や田舎の風景描写を交えながら描いた場面です。登場人物の心情や状況理解に加え朗読の方法や表現方法を問うという形式は例年通りです。難易度は平均的かやや易で、論説文と古文のことを考えると、ここでは確実に得点することが求められます。

問三：出典は井上雅人「ファッションの哲学」で、ファッションにおけるコミュニケーションに関する文章です。高校の論理国語の教科書に載っていてもおかしくないレベルの抽象的な内容で、文意をつかむのに時間をとられた受験生も多かったと思われます。形式は例年と同様ですが、紛らわしい選択肢が多いため、本文の内容と選択肢の文言を照らしながら消去法で正解をみつけてゆきます。

問四：「古事談」からの出題です。顕季と義光の荘園の領有権争いにおいて、白河法皇が裁定を下さなかった真意と、その配慮が結局正しかったことがうかがい知れる内容となっています。改変しているとはいえ、大学入試に出たこともある、難度の高い文章でした。現代語訳や注釈を参考にしながら登場人物の敬語関係を整理(白河法皇>顕季>義光)し、心情を丁寧に読み解くことで正解にこぎつきたいところです。

問五：「AIとの関わり方」に関連する問題です。出典は長谷川眞理子「ヒトの原点を考える」と大澤真幸「無意識が奪われている」です。(ア)はそれぞれの文章の主旨を読み取る問題で、冷静に対応すればそれほど難しくはありません。(イ)は、二つの文章の関係性を把握し、AIを「自分で何かを達成するための手助けとする」ことで「人間の偶有性が失われないように」活用するという内容をまとめる問題でした。「偶有性」の意味がわかっていないと書きづらかったと思われます。